

令和7年6月3日

嵐山町議会議長 森 一人 様

嵐山町立小中学校再編調査特別委員長 狛守 勝義

所管事務の調査報告

本特別委員会は、所管事務の調査を下記のとおり報告します。

記

1 調査事項

「小中学校再編に伴う教育保障・地域振興・財政計画等について」

2 調査結果

本特別委員会は、閉会中の特定事件として上記調査事項について4月18日、5月2日及び16日に委員会を開会し、調査研究を行った。

4月18日の委員会について

(1) 正副委員長による教育委員会からの聞き取り調査の内容説明及び委員間協議

○聞き取り調査の内容

(問) 特別委員会からの要望について、どのように受け止め、どのような対応をするのか。

(答) 基本的には尊重し、可能な限り反映させる方針。ただし、全ての要望が実現できるとは限らない。できない場合は理由を説明する。

(問) 中学生のスクールバス利用や安全面等に柔軟に対応して欲しい。

(答) 継続協議中であり、議論を通して納得のいく着地点を見つきたい。

(問) 通学路について、特別委員会としては危険箇所の洗い出しとして、歩道の状況を実際に歩いて確認したい。大まかなルート案の提示を要望したい。

(答) スクールバス運用の検討終了後に通学路の協議を始める予定で、通学・安全部会での協議は始まっていない。教育委員会が一方的に決定するものではなく、安全な複数ルートの選択肢を提示するのが主な役割である。

(問) 町民説明会での安全面の要望をどのように受け止め、どのように活かすのか。

(答) 文科省の方針変更（1学級の人数変更）や説明会で寄せられた町民意見を踏まえ、設計の見直しを進めている。特に職員室の位置に関する安全面の意見に対して、当初2階にあった職員室は1階に変更する方向で検討中。

○主な意見

・今回の統合で一番不平等になるのは通学問題。遠い地区の人は通学時間が長くなる。距離や場所だけで線引きをせず、様々なケースに対応するのが学校の業務と考える。

・スクールバスの予算は2,000万円程度だが、他市町では5,000万円位かかる例もある。予算の中で収めようとするとは非常に狭いものになり、柔軟な対応ができなくなる。

(2) 今後の進め方について

スクールバスの運行については、今後も協議を継続していく。新校舎建設については視察も視野に入れ、まずはコモンズについて調査研究する。通学路については、教育委員

会から素案を出してもらい、その上で自転車通学も含めて検討していくこととした。

5月2日の委員会について

(1) 吉田地区の取り扱いについて（中学生のスクールバスの利用）

通学・安全部会で継続協議中の吉田地区の取り扱いについて協議を行った。その結果、通学・安全部会の協議が深まってから特別委員会で協議するのではなく、部会での協議と並行して特別委員会でも協議を重ねることとした。

○主な意見

- ・中学生は「古里地区がバス、吉田地区は自転車」と一律に決めないで、ある程度のラインを決めておき、個々の案件は学校長の判断に委ねるということで良いのでは。
- ・境界線の近い家庭からは「同じくらいの距離なのに、どうしてバスに乗れないのか」という不満が出ると思う。6 kmではなく4 km以上で地域を区切り、バスを使えるようにした方が良い。

(2) 新校舎建設 コモンズについて

（資料）武蔵野大学学術機関レポジトリ「新たな教育ニーズに対応した学校建築の在り方について：武蔵野市学校施設整備計画を事例として」をもとに、コモンズについて調査研究した。

5月16日の委員会について

(1) 滑川町立月の輪小学校建設時のことについて

講師として江森不二男氏をお招きし、月の輪小学校建設時の経緯、コモンズ、工夫した点、評価等を伺った。

○主な意見

- ・当時としても今でも、斬新なものを取り入れているので視察を検討したい。
- ・建設、維持管理をPFIで行っており、建てて終了でないのは大事な視点。嵐山町でも検討するべき。
- ・PFI事業で民間の技術を取り入れ、その結果成功していると言える。嵐山町でも教育の特色を活かした設計をしてもらいたい。

(2) スクールバス・通学路について

○主な意見

- ・既に柔軟な対応を、という要望は出している。その上で、越畑・吉田・勝田のバス利用について、直線ではなく実測で見た方が良い。開校時にバスが足りないのであれば、代替（デマンドタクシー等）を検討した方が良い。
 - ・電動アシスト自転車は、平地であれば充電も十分足りるが、山道だと途中で充電が切れて普通の自転車より大変。距離だけでなく地形も考えて検討する必要がある。
 - ・予算とのバランスが大事になる。どこまで救っていくか落とし込んでいく必要がある。
 - ・無限に財源があるわけではない。自転車を希望する家庭、バスを希望する家庭等を調査する必要がある。遠距離自転車通学者への支援や安全な通学路の確保については、しっかり指摘していかなければならない。
- 以上中間報告とします。